

ウシオの今と未来をお伝えする

P R I S M

第51期報告書

[2013年4月1日～2014年3月31日]
2014年6月発行

株主・
投資家の
皆さまへ



光のものがたり

「見えない光」が
おもしろい。

CONTENTS

- | | | |
|------------------|--------------|----------------|
| 2 光のものがたり | 9 グループトピックス | 17 第51期の事業概況 |
| 4 光テクノロジー&フロンティア | 10 セグメント別の概況 | 18 株式の状況 |
| 6 株主の皆さまへ | 14 連結決算 | 19 新任役員紹介/会社概要 |



USHIO

ウシオ電機株式会社

「見えない光」がおもしろい。

「真空紫外線」をご存知でしょうか。太陽光に含まれているのですが、空気中を通ってくる間に酸素に吸収されてしまうため、地上には到達しない光です。真空でしか存在できないことからこの名がつけました。光の中ではもっとも波長が短くエネルギーの大きいこの真空紫外線には、さまざまな光化学反応、生物反応を引き出す力があることがわかっており、半導体製造や液晶パネルの光洗浄など多くのシーンで活用されています。その光がいま、環境や農業、エネルギーなど地球規模での課題を解決する答のひとつとして、注目を集めています。

見えない光も植物を育てる？

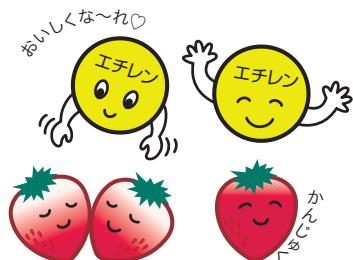
植物の生育には光が大きく関与し、波長域によって植物に与える影響が異なります。赤外域の光は光合成への影響がもっとも大きく、紫外域の光は葉の正常な形態形成に必要とされています。また最近の研究では、波長320nmの紫外線(UVB)は、リーフレタスの抗酸化酵素であるアントシアニンの含有量を増やす光であることがわかっており、栄養価の高い作物を育てることができます。一方、植物の生育時期によっては、同じ波長域の紫外線が成長を阻害す

ることもわかっています。不思議ですね。それでは、地表には届かない波長200nm以下の真空紫外線で、一体、何ができるのでしょうか。

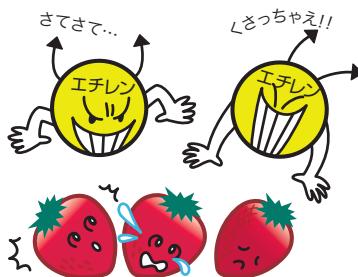
大量のイチゴを輸出したい!

日本のイチゴはたいへん美味しく、アジアを中心に高値で取引される人気の果物です。しかしイチゴは鮮度が落ちやすい上にカビが発生しやすく、空輸以外の手段がありません。これではコストがかかる上、輸出できる量にも限りがあ

エチレンガスはイチゴの熟成を促します。



ところが!熟したイチゴを老化させる作用もあります。



そこに、真空紫外線によってオゾンが発生させると...



オゾンはエチレンガスを分解するだけではなく、カビの抑制にも効果があり、このW効果でイチゴの鮮度を保ちます。



ります。そこで現在、もっと大量のイチゴを海外の消費地に届けられる船便を使う方法が検討されています。ポイントは、いかにイチゴの追熟を防ぎ、カビの発生を抑えるか?ここで活躍するのが、「真空紫外線」と「オゾン」なのです。

オゾンでアンチエイジング!?

果物は「エチレン」という成熟ホルモンの作用で成長していきます。しかし収穫したあとも追熟を続けるため、エチレンガスが放出し、今度はそれが老化(腐る)原因になってしまうだけではなく、放出されたエチレンガスはまわりの果物まで傷めてしまうのです。

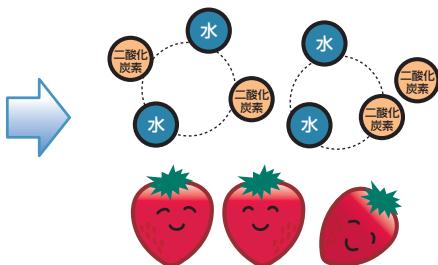
成長するためには必要なものの、熟した後は老化の原因になってしまうこのエチレンガスを分解し、影響を止めるのがオゾンです。オゾンにはエチレンを水と二酸化炭素に分解するはたらきがあり(下図参照)、このオゾンが果物が保管されている船便のコンテナに充満させることで、コンテナ内の果物がエチレンによって老化するのを防ぎ、鮮度を維持することができます。そして、そのオゾンを生産さ

せるために必要なのが真空紫外線なのです。

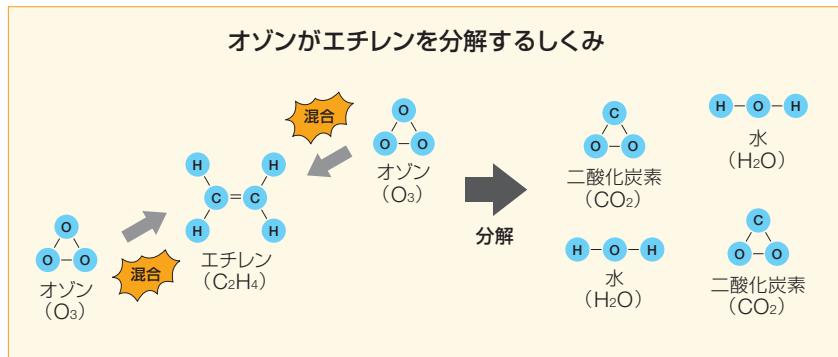
真空紫外線でクリーンなオゾンを生成

オゾンを生産させる方法はいくつかあり、現在もっとも一般的に使われているのは放電によるものです。ところが、放電によるオゾン生成では人体に極めて有害である窒素酸化物(NOx)も発生してしまいます。そして、もうひとつの方法が紫外線を酸素に照射する方法です。この方法であれば、クリーンなオゾンを生産させられるのですが、紫外線の中には、オゾンを生産させる波長域とオゾンを分解する波長域とが混在するため、従来の紫外線ランプは非常に効率の悪いものでした。そこでウシオが開発したのが、オゾンを生産させる波長域(172nm)だけをピンポイントで照射できる真空紫外線ランプです。すでに果物業社や船舶業社と共同で、このランプを使用したコンテナ搭載用オゾン発生装置の開発・実験をスタートさせています。もうすぐ、ウシオの光技術で世界中の人々に日本のみずみずしいイチゴをたくさんお届けできるかも知れません。

オゾンがエチレンガスを水と二酸化炭素に分解。



オゾンがエチレンを分解するしくみ



「真空紫外線」で環境問題にも答えを

いま世界中で大気や土壌、水質の汚染が深刻な問題となっています。その一方で、汚染対策の技術も着々と進歩し続けており、ここにも、ウシオの真空紫外線の活躍するフィールドがあります。

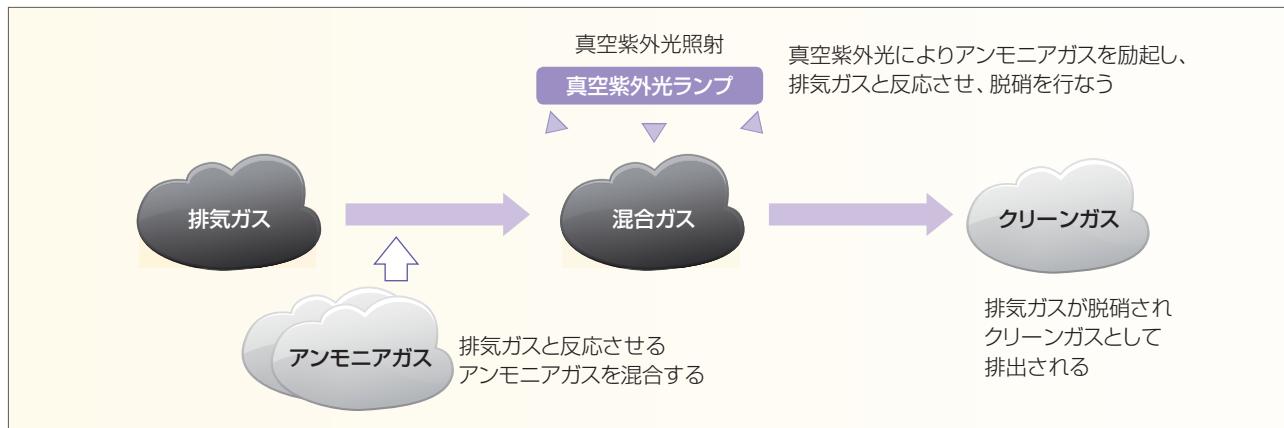
光化学スモッグの原因物質「NOx」を分解

大気汚染物質にはさまざまな種類がありますが、なかでもNOxは光化学スモッグや酸性雨の原因となる物質で、自動車や船舶などのディーゼルエンジン、火力発電所、ゴミ焼却場などから発生します。この有害なNOxを無害な窒素や水蒸気に分解するのが「脱硝」と呼ばれる技術です。これまでは高価な消耗品である触媒を使ったり、900℃以上の高温な排ガスにアンモニア処理を行ったりする必要

がありました。真空紫外線をNOxとアンモニア、酸素が混在する排ガスに直接照射することで、高価な触媒を使用することなく、しかも常温でNOxを無害化することができます。この新技術*は今後、排ガスが低温であるため従来技術の適用が難しかったディーゼルエンジンなどへの応用が期待されています。

*ウシオ、岐阜大学、株式会社アクトリーが共同で開発。

真空紫外光による脱硝イメージ



その焼却灰、本当に安全？

雑多な材質のゴミを焼却して残った灰（飛灰）には、雨や地下水に溶けやすい塩化鉛や青酸化物が残っており、その多くは埋め立てによって処理されています。しかし、鉛毒で知られる鉛は、少量でも体内に摂取すると貧血や神経障害を引き起こすことがあるため、土壌や水質を汚染しないように、金属を溶けにくくする薬剤を混合したり、飛散しないようシートをかぶせつつ、数年から数十年間も自然放置して鉛が酸化するのを待つといった処置がなされてきたのですが、より効率的で安全・安心な処理方法が模索されています。

鉛も水銀も真空紫外線で処理できる

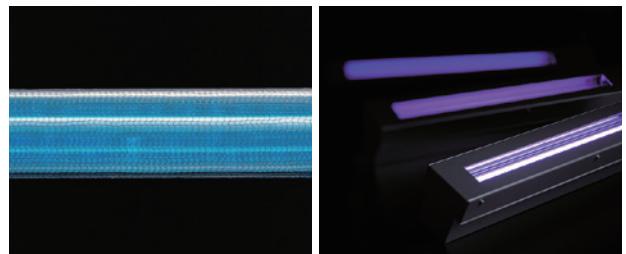
現在、「焼却灰中の鉛にオゾンを反応させ、水に溶けにくい酸化鉛に変える」という研究が進められています。また人体に有害な水銀の新たな処理方法についても研究が始まっており、いずれも、真空紫外線によるオゾン生成がもっとも有望視されています。それは、人体や自然環境に有害な物質を発生させずに、クリーンなオゾン生成ができる真空紫外線が、環境問題を解決するのにもっともふさわしいと考えられているからなのです。

CO₂削減も真空紫外線で!?

真空紫外線の中には、オゾンを発生させる波長域より、もっと短い波長域で、特徴的に二酸化炭素を分解する光の存在が知られています。これを使って二酸化炭素を酸素と炭素に分解し、酸素は大気中に、炭素はエネルギーとして利用できるのではないかと… 夢のようなお話も聞こえてきます。けれど石炭は、植物が二酸化炭素を取り込んで光合成によって成長し、長い時を経て姿を変えたものです。あながち夢とばかりも言いきれません。

ウシオは、光には無限の可能性があり、人類が抱える問題を解決する答えのいくつかは、光にあると考えており、これからもその可能性に挑戦し続けていきます。

ウシオの真空紫外線ランプ



エキシマランプ

UV-XEFL



2014年4月1日、おかげさまでウシオ電機は創立50周年を迎えました。これもひとえに、皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。1964年に生まれた私たちの小さな「光」は、さまざまな産業分野において、あかりとして、エネルギーとして大きく成長してまいりました。そしてこれからも、ウシオは光のプロフェッショナルとして皆さまのご期待にお応えすべく、光の可能性に挑戦し続けてまいります。

2014年3月期は増収増益

当期の売上高は、前期比10.0%増の1,578億円、営業利益は59.7%増の121億1千万円、経常利益は50.9%増の159億4百万円、当期純利益は50.5%増の107億7千万円の増収増益となりました。

当期は、欧米経済および国内経済の回復傾向と円安の影響に支えられ、光源事業、装置事業のいずれも増収増益となりました。

装置事業では、映像装置分野においてデジタルシネマプロジェクト(DCP)が先進国で相当程度普及したことにより売上が減少したものの、一般映像向けなどシネマ以外の用途が拡大し、増収となりました。光学装置分野では、液晶パネル製造用光配向装置の販売が本格化したものの、電子部品製造用露光装置の販売低迷などにより微減収となりました。

光源事業では、放電ランプのうち露光用UVランプが堅調に推移し、また、トップシェアを誇るシネマプロジェクト用クセノンランプとOA用ハロゲンランプは引き続き好調でした。

また50周年を無事に迎えられましたことに感謝申し上げ、4円の記念配当を実施し、当期の1株当たり配当は26円としました。

中期計画について

このほど発表した3カ年の中期計画では、2017年3月期の売上高目標を当期比およそ30%増収の2,100億円、営業利益率10%といたしました。この目標を達成するため

中期計画 2017年3月期達成目標

	2014年3月期(実績)	2015年3月期(計画)	2017年3月期(計画)
売上高	1,578億円	1,700億円	2,100億円
営業利益	121億円	140億円	210億円
営業利益率	7.7%	8%	10%
ROE	6.0%	—	8%目標

の成長ドライバーとして、以下の事業に注力していく考えです。

シネマ向け新事業と新光源

映像装置分野において、映画館で高品質な音響を提供するオーディオ事業に新規参入します。クリスティの高品質な映像に高品質な音響システムを加えることで、映像におけるクリスティのブランド力を活かしたトータルソリューションビジネスを展開していきます。また、大型のプレミアムシアター向けに半導体レーザー(LD)を使用したレーザープロジェクタ需要の拡大も期待できると考えています。レーザープロジェクタは非常に明るいため、3D映画に最適であるほか、大きなスクリーンに投影可能であることから、映画館にとって顧客満足度の向上だけでなく、収容人数を増やすことができるなどメリットが多く、近々、北米の映画館に導入する予定です。このレーザープロジェクタは、DCPが世界中に普及したように、将来的には各国に普及することが

期待できるため、今後も積極的な開発投資を行なっていく計画です。

ディスプレイの高精細化による光学装置の拡大

スマートフォンやタブレット端末市場は引き続き拡大傾向にあり、それに伴う液晶パネル市場の需要増に対し、当期より販売を開始した光配向装置の拡大をさらに推進していきます。また、半導体・電子部品分野においても、今後、成長が期待されるハイテク機器や自動車、医療関連機器向けに、露光装置の販売拡大を計画しており、次世代を見据えた開発投資も引き続き積極的に進め、事業拡大を目指していく方針です。

固体光源の早期事業化を推進

光源事業については、引き続き従来からのシネマプロジェクタ用クセノンランプの伸長が期待できるほか、UVによる除菌、殺菌、脱臭や脱硝などの新規用途へもさらに拡大と

浸透を図っていきます。

固体光源については、照明分野において、設計事務所との事業提携などにより、付加価値のあるLED照明を提供していく計画で、既に、東京や韓国の高級ホテルや空港やショッピングモールなどで採用が進んでいます。また、固体光源事業は事業化を加速するため、2014年4月1日から新たな組織として独立させました。今後、固体光源事業の早期事業化、製品化を目指した一層の開発投資を実施していきます。

バイオメディカル事業も独立事業部へ

バイオメディカル事業も新たに組織として事業部を独立させ、成長を加速させる方針です。現在ウシオは、バイオメディカル分野の製品を複数販売しており、世界中に大きな潜在ニーズが存在すると考えています。医療用製品は薬事認可に時間を要することもあり、目下、各国での薬事認可の取得を進めつつ、製品ラインナップを増やしていくために大学病院などとの産学官連携を強め、試薬開発などの一層の促進を図っています。将来は、映像画像、エレクトロニクスと並ぶ事業規模を目指しており、M&Aを含め積極的な資源投入を実施していきます。

2015年3月期の見通し

当社グループを取り巻く経営環境を展望しますと、世界経済は全体としては緩やかな回復・拡大が続き、国内経済も消費税率引き上げの影響が懸念されるものの次第に緩やかな回復に戻ることが想定されます。

通期の業績は、売上高は前年同期比7.7%増の1,700億円、営業利益は前年同期比15.6%増の140億円、経常利益は前年同期比0.6%増の160億円、当期純利益は前年同期比2.1%増の110億円を予想しています。

今年創業50周年を迎えたウシオは、いまや国内外に50を超えるグループ企業を擁し、連結売上高の8割近くを海外のお客さまへの売り上げが占めています。また、グループ従業員5,470名のうち半数以上の3,089名が海外グループに籍を置く、真のグローバル企業となりました。

50周年という節目にあたり、私どもはこれまで同様これからも「光」のソリューションを提供していくことで社会に貢献し、成長し続けていきたいという思いを新たにしています。今後とも、一層のご支援を賜れば幸いに存じます。

2014年6月

代表取締役社長・CEO

菅田史朗

映像+音響のトータルソリューションビジネスへ クリスティがオーディオビジネスに参入

2Dから3Dへ、2Kから4Kへと映画はより美しく、よりリアルなものへと進化しています。そしてさらには、それら高画質な映像に加え、ハイエンドな音響システムへの強い関心とニーズが集まっています。

そこで100%子会社のクリスティデジタルシステムズでは、プロジェクタビジネスを通じて確立したブランド力を最大限に活かし、これらのニーズに応えるため新たにシネマオーディオ事業「CHRISTIE® VIVE AUDIO™ (クリスティ・ヴィーヴ・オーディオ)」を立ち上げました。

これは、画期的な音響最新プラットフォームDolby® Atoms™の品質を再現できるシステムであり、米国を中心に導入を推進しています。



ジョージア工科大学の2.5Dインターポーザコンソーシアムに参加、 2.5D開発用露光装置を設置

ウシオ電機は、米国のジョージア工科大学が主催するインターポーザ開発コンソーシアムに参加し、2013年12月、「3Dシステムズ・パッケージング・リサーチ・センター」(以下、GT-PRC)に、ガラス基板用2.5Dインターポーザを開発するための露光装置を貸与・設置しました。

GT-PRCは、「トランジスタの微細化に伴うシステムの小型化」に取り組んでいる世界有数の国際学術機関であり、ウシオは2.5Dリソグラフィプロセスの技術開発と共に、専任技術者を派遣し、ガラスインターポーザおよびパッケージ開発のコストダウンにおけるサポートを担当しています。

現在、スマートフォンなど電子製品に搭載される各種システムの小型化の実現に向け、最大の障害と言われているのが製造装置や材料、およびプロセス構築です。元来、ウシオの露光装置はパネル基板対応に強みを持っており、パネル基板へのパッケージングリソグラフィをさらに微細化することで、各種課題への対応が可能であることを立証しつつあり、低コストで広範囲に渡るアプリケーション向けのガラスインターポーザとパッケージ技術の確立が期待されています。

また、このコンソーシアムへの参加は、ウシオのパネル向けリソグラフィ技術をより多くのパッケージング分野のユーザーに提供する契機になるだけでなく、ウシオのリソグラフィの周辺技術の開発促進も期待されています。





装置事業

主な商品

露光装置、光配向装置、光硬化装置、光検査装置など光学装置
 デジタルシネマプロジェクタ、コントロールルーム、シミュレータ、
 デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステムなど映像装置
 紫外線皮膚治療器、血液分析装置など医療機器
 半導体検査・開発用EUV光源装置

当期の業績

全世界のシネマスクリーンにおけるデジタル化が相当程度進んだものの、小型機の投入により、デジタルシネマプロジェクタの販売台数は前年同期とほぼ横ばいで推移しました。一方、一般映像分野については、米国に加え欧州でも販売が拡大し、コントロールルームなど各種映像装置の販売が堅調に推移しました。

光学装置分野は、液晶パネル製造用の光配向装置の販売が本格化したものの、電子部品製造用露光装置の販売低迷などにより微減収となりました。

その結果、売上高は前年同期比6.2%増の912億4千3百万円、セグメント利益は前年同期比119.1%増の25億3千7百万円となりました。

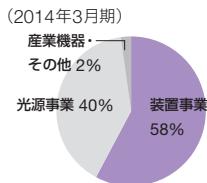
2015年3月期の見通し

シネマ関連では、新規に参入するオーディオ事業を含めたソリューションビジネスの拡大を目指します。年率10～15%の市場拡大が続いている一般映像事業分野では、引き続きバーチャルリアリティやシミュレーションシステムを中心に用途拡大が期待できることから、市場全体で販売拡大を見込んでいます。

エレクトロニクス市場では、中小型の高精細液晶パネル向け光配向装置が引き続き好調に推移するとともに、パワーデバイスやMEMS製造向けなどの露光装置需要の拡大が期待できます。また、2.5Dインターポーザ向け露光装置やプリント基板用直描装置などの新規需要も期待できます。

主要数値

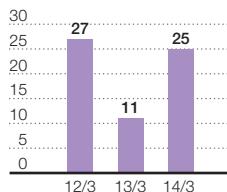
売上高構成比



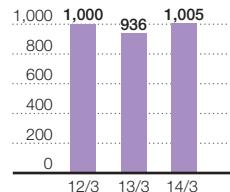
売上高(億円)



セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)



売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

装置事業 中期計画

	2014年3月期(実績)	2015年3月期(計画)	2017年3月期(計画)
映像装置	639億円	670億円	800億円
光学装置	255億円	291億円	390億円
照明装置	16億円	24億円	33億円

■ 事業環境予測と主な取り組み

装置事業	映像装置	<ul style="list-style-type: none"> ● DCPの小型機ソラリアによりシェアを維持。新シネマ事業(シネマ オーディオ「Christie Vive Audio(クリスティ・ヴィーヴ・オーディオ)」事業など)を拡大 ● 映像の用途拡大による一般映像事業の成長 ● ネットワークオペレーションセンター(NOC)などのマネージドサービスやレンタル事業の継続的拡大
	光学装置	<ul style="list-style-type: none"> ● 光配向装置の車載用や普及型スマホ用液晶パネルへの用途拡大 ● スマホ・タブレット関連市場の継続的成長によるFC-CSP用露光装置の需要増 ● モバイルの省電力化、処理スピード高速化などに伴うパッケージ市場の需要拡大による2.1D/2.5D/3D用をはじめとする露光装置の需要拡大 ● ウェアラブル、自動車関連などの半導体市場の成長に伴い、関連する露光装置の需要拡大 ● 独自性と収益性を追求したバイオメディカル事業の推進

光源事業



主な商品

半導体/FPD/プリント基板製造装置用UVランプ
 各種監視、生体認証、光センサ用LED
 照明用、データプロジェクタ用、シネマプロジェクタ用、OA機器用
 など各種ランプおよび固体光源(LED/LD)

当期の業績

光源事業では、円安の影響もあり、全般的に好調に推移しました。シネマプロジェクタ用クセノンランプは、新興国を中心にデジタルシネマスクリーン数の増加やリプレイス需要の増加により、引き続き販売が拡大しました。

露光用UVランプは、スマートフォンやタブレット端末を中心に、液晶・半導体関連メーカーの設備稼働率が高水準を維持していることから、リプレイス需要が堅調に推移しました。ハロゲンランプも、OA関連の各セットメーカーで在庫調整が一巡したことなどから好調に推移しました。なお、引き続き高輝度・高効率化等、製品開発を推進し、特に、固体光源(LED・LD)製品の研究開発を積極的に進めています。

その結果、売上高は前年同期比17.5%増の641億9千2百万円、セグメント利益は前年同期比51.5%増の93億8千9百万円となりました。

2015年3月期の見通し

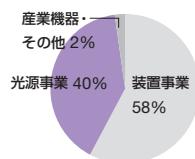
中国などの新興国市場におけるシネマのスクリーン数増加に伴って、リプレイスランプ需要は引き続き堅調に推移すると見込んでいます。

エレクトロニクス市場では、高精細液晶パネル製造メーカーでの稼働率改善によって、新規の設備投資の拡大に伴うリプレイス需要の増加が期待され、堅調に推移するものと思われます。

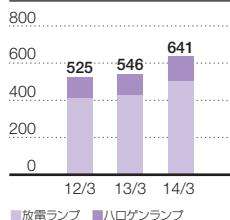
主要数値

売上高構成比

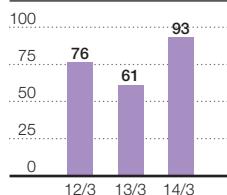
(2014年3月期)



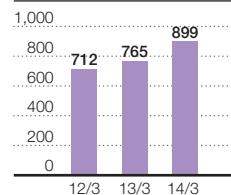
売上高(億円)



セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)



売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

光源事業 中期計画

	2014年3月期(実績)	2015年3月期(計画)	2017年3月期(計画)
放電ランプ	504億円	530億円	647億円
ハロゲンランプ	131億円	140億円	154億円

■事業環境予測と主な取り組み

光源事業	放電ランプ	<ul style="list-style-type: none"> 品質の維持向上による高シェア維持 固体光源事業の開発促進および製品化を推進 既存光源の新用途開拓と製品化を推進
	ハロゲンランプ	<ul style="list-style-type: none"> OA用の高シェア維持 自動車産業用途など、新用途展開

既存光源の新規用途開拓例

UV光による船舶用バラスト水殺菌

複数の海外大手造船メーカーにおいて、船舶バラスト水UV殺菌用ランプと電源が採用されました。2017年から船舶のバラスト水処理が国際的に規制され、義務付けられることとなり、市場拡大が期待できる分野です。

VUV光によるNOx分解技術

岐阜大学と焼却処理装置の製造・開発会社(株)アクトリーとの共同で、世界初の常温かつ無触媒でNOxを分解できる「VUV直接脱硝」技術を開発。早期実用化・製品化を目指しています。

貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第51期 (2014.3.31)	第50期 (2013.3.31)	科目	第51期 (2014.3.31)	第50期 (2013.3.31)
資産の部			負債の部		
流動資産	153,004	140,646	流動負債	39,957	37,950
現金及び預金	46,146	42,136	支払手形及び買掛金	16,757	16,610
受取手形及び売掛金	39,853	34,565	短期借入金	1,669	1,904
有価証券	12,724	14,140	その他	21,530	19,435
商品及び製品	24,321	21,757	固定負債	24,134	13,922
仕掛品	5,836	5,817	長期借入金	3,334	2,791
原材料及び貯蔵品	11,691	10,405	繰延税金負債	2,347	1,089
繰延税金資産	5,678	5,042	その他	18,452	10,042
その他	7,449	7,497	負債合計	64,091	51,873
貸倒引当金	△697	△717	純資産の部		
固定資産	102,334	88,011	株主資本	169,482	162,609
有形固定資産	39,126	36,776	資本金	19,556	19,556
建物及び構築物(純額)	18,097	17,802	資本剰余金	28,371	28,371
機械装置及び運搬具(純額)	3,791	3,745	利益剰余金	134,798	126,912
土地	9,266	9,057	自己株式	△13,244	△12,231
その他	7,970	6,169	その他の包括利益累計額	18,302	11,019
無形固定資産	4,159	2,863	その他有価証券評価差額金	21,407	14,666
投資その他の資産	59,048	48,371	繰延ヘッジ損益	△7	△23
投資有価証券	54,883	45,384	為替換算調整勘定	1,590	△3,623
その他	4,165	2,986	退職給付に係る調整累計額	△4,687	—
資産合計	255,338	228,657	少数株主持分	3,461	3,155
			純資産合計	191,246	176,784
			負債純資産合計	255,338	228,657

流動資産は、1,530億4百万円となり、前期末に比べ123億5千8百万円増加しました。主な増加要因は、円安による為替換算後の「現金及び預金」の増加と商量の増加による「受取手形及び売掛金」の増加です。

固定資産は、1,023億3千4百万円となり、前期末に比べ143億2千2百万円増加しました。主な増加要因は、株式市況の回復による「投資有価証券」の増加です。

負債は、640億9千1百万円となり、前期末に比べ122億1千8百万円増加しました。主な増加要因は、「退職給付に係る負債」(前期末は退職給付引当金)の増加です。

純資産は、1,912億4千6百万円となり、前期末に比べ144億6千2百万円増加しました。主な増加要因は、円安による「為替換算調整勘定」の増加、保有有価証券の評価増に伴う「その他有価証券評価差額金」の増加です。

損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第51期 (2013.4.1~2014.3.31)	第50期 (2012.4.1~2013.3.31)
売上高	157,800	143,461
売上原価	101,809	95,196
売上総利益	55,991	48,264
販売費及び一般管理費	43,881	40,682
営業利益	12,110	7,582
営業外収益	4,377	3,544
営業外費用	583	587
経常利益	15,904	10,539
特別利益	1,936	57
特別損失	2,325	4,545
税金等調整前当期純利益	15,515	6,050
法人税等合計	4,665	△924
少数株主損益	79	△179
当期純利益	10,770	7,155

売上高は、欧州および米国経済の回復傾向や、国内経済の穏やかな回復を背景に、前期比10.0%増の1,578億円となりました。

営業利益は、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた生産・販売体制の整備・拡充、適地生産の促進等、全グループを挙げて業績の向上に注力した結果、前期比59.7%増の121億1千万円となりました。

経常利益は、営業利益の増加に対し営業外費用が前期とほぼ同程度であったため、前年同期比50.9%増の159億4百万円となりました。

当期純利益は、前期比50.5%増の107億7千万円となりました。

包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第51期 (2013.4.1~2014.3.31)	第50期 (2012.4.1~2013.3.31)
少数株主損益調整前当期純利益	10,850	6,975
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,740	2,040
繰延ヘッジ損益	16	△23
為替換算調整勘定	5,414	8,662
持分法適用会社に対する持分相当額	6	10
その他の包括利益合計	12,177	10,689
包括利益	23,027	17,665

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上155億1千5百万円及び減価償却費の発生50億2千1百万円による収入と、売上債権の増加32億8千7百万円、たな卸資産の増加11億1千万円、仕入債務の減少3億6千5百万円および法人税等の支払37億6千1百万円の支出によって、106億2千2百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻142億2千1百万円、有価証券の売却および償還26億6千万円、投資有価証券の売却および償還34億3千4百万円による収入と、定期預金の預入130億6百万円、有価証券の取得13億1千8百万円、有形固定資産の取得50億4千1百万円、投資有価証券の取得31億8千1百万円および事業譲受による23億7千1百万円の支出によって、44億7千6百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による30億7千5百万円の収入と、長期借入金返済50億8千万円、自己株式の取得10億1千2百万円および配当金の支払28億8千4百万円の支出によって、66億7千万円の支出となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第51期 (2013.4.1~2014.3.31)	第50期 (2012.4.1~2013.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,622	14,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,476	△8,649
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,670	△7,092
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,604	2,975
現金及び現金同等物の増減額	2,080	1,676
現金及び現金同等物の期首残高	43,261	41,585
現金及び現金同等物の期末残高	45,342	43,261

連結決算

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

第51期 (2013.4.1～2014.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
2013.4.1残高	19,556	28,371	126,912	△12,231	162,609	14,666	△23	△3,623	—	11,019	3,155	176,784
当期変動額												
剰余金の配当			△2,884		△2,884							△2,884
当期純利益			10,770		10,770							10,770
自己株式の取得				△1,012	△1,012							△1,012
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						6,740	16	5,213	△4,687	7,283	305	7,589
当期変動額合計	—	—	7,886	△1,012	6,873	6,740	16	5,213	△4,687	7,283	305	14,462
2014.3.31残高	19,556	28,371	134,798	△13,244	169,482	21,407	△7	1,590	△4,687	18,302	3,461	191,246

(単位:百万円)

第50期 (2012.4.1～2013.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付による 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
2012.4.1 残高	19,556	28,371	122,642	△12,228	158,341	12,628	—	△12,103	—	524	3,183	162,048
当期変動額												
剰余金の配当*			△2,884		△2,884							△2,884
当期純利益			7,155		7,155							7,155
自己株式の取得				△2	△2							△2
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						2,038	△23	8,480	—	10,495	△27	10,467
当期変動額合計	—	—	4,270	△2	4,268	2,038	△23	8,480	—	10,495	△27	14,736
2013.3.31 残高	19,556	28,371	126,912	△12,231	162,609	14,666	△23	△3,623	—	11,019	3,155	176,784

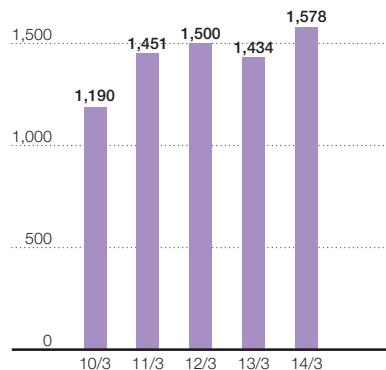
※2013年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

第51期の事業概況

数字で見るウシオ (連結ベース)

売上高

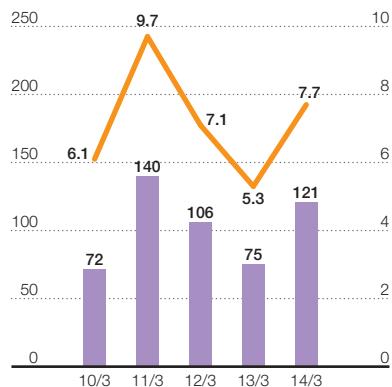
2,000(億円)



営業利益/売上高営業利益率

300(億円)

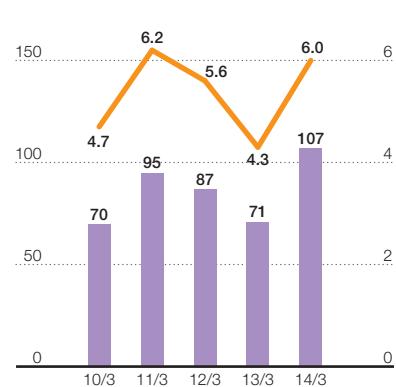
(%)12



当期純利益/自己資本利益率(ROE)

200(億円)

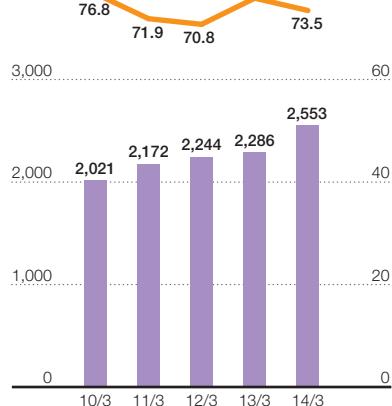
(%)8



総資産/自己資本比率

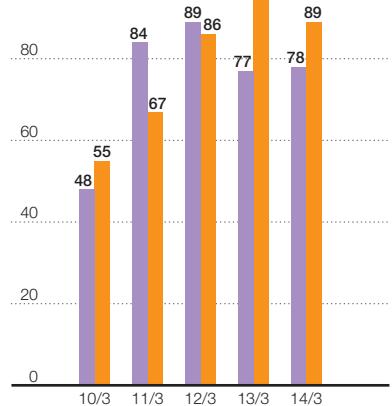
4,000(億円)

(%)80



設備投資額/研究開発費

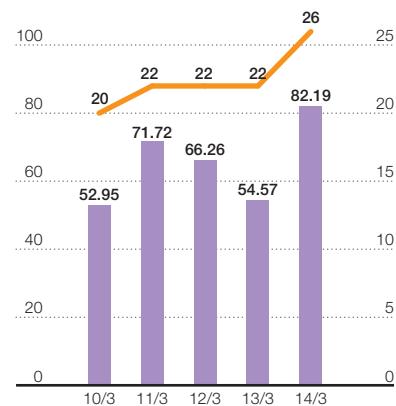
100(億円)



1株当たり当期純利益/1株当たり配当金

120(円)

(円)30



※数字はすべての表示数未満の位を切り捨てて記載しております。

株式の状況 (2014年3月31日現在)

発行済株式総数 139,628,721株

株主 13,444名

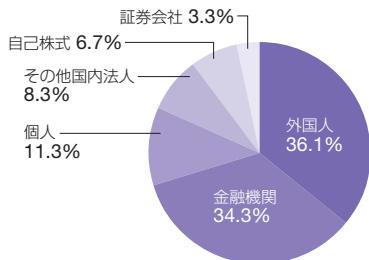
大株主の状況 (200万株以上)

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,304	5.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,657	4.05
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	5,512	3.94
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04
ジェーピー モルガン チェース バンク 385174	4,070	2.91
みずほ証券株式会社	3,754	2.68
株式会社りそな銀行	3,616	2.58
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	3,528	2.52
朝日生命保険相互会社	3,305	2.36
牛尾治朗	3,201	2.29
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,104	2.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	2,924	2.09
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505103	2,266	1.62
野村信託銀行株式会社 (投信口)	2,154	1.54
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー	2,087	1.49

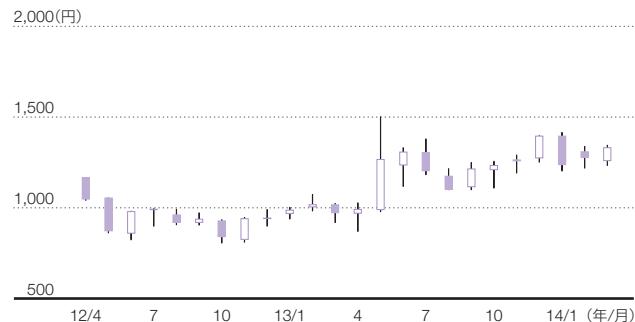
※上記のほか、当社が所有している自己株式9,307千株があります。

※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

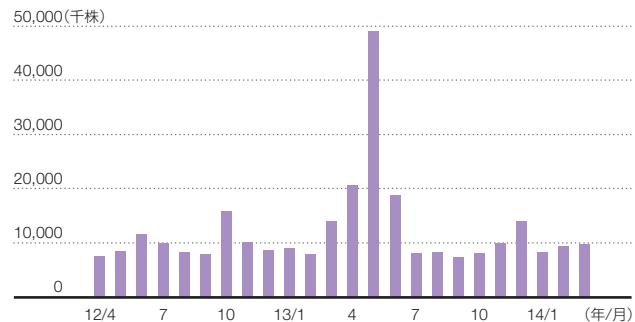
株式の分布状況



株価の動き



株式売買高



新任役員紹介



社外取締役 原 良也

グローバル化が加速し、企業を取り巻く環境の変化は激しく、今や情報力が重要な経営資源となっています。あらゆる環

境、市場の変化に対応し持続的成長発展をもたらすイノベーション経営の確立こそ、コーポレート・ガバナンスの重要課題です。それをもたらすのは、経営の透明性と開かれたガバナンスであり、外部とのコミュニケーション力であります。

私自身、企業実績を映す鏡である資本市場に長く関わり、ビッグバンと言われる金融改革に経営者として挑戦してきました。この度、独立社外取締役として、私は社外の目を代表し、これまでの経験と情報を活かし、当社の健全なコーポレート・ガバナンスの確立とサステナビリティの確保に貢献することを、大きな使命として取り組んでまいります。



社外監査役 米田 正典

私は損害保険事業を営む会社に40年間在籍し、企画部門として、また担当役員として二度の大きな合併を経験しました。

また、コンプライアンス部門、内部監査部門、総務部門、人事部門などの担当役員も務めてきました。

これらの経験を踏まえ、新たな視点から適切なアドバイスを行なうことで、事業運営に役立つよう尽力すると同時に、社外監査役として経営の監視という役目もしっかり果たしていきたいと考えています。当社は、メーカーとして確固たる地位を築いており、健全経営を実践し、さらに株主価値を高めるための努力をしています。私はそれらの取り組みを責任を持って見守っていく所存です。

会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2014年6月26日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	菅田 史朗
代表取締役	浜島 健爾
取締役	多木 正
取締役	徳廣 慶三
取締役	牛尾 志朗
取締役	伴野 裕明
取締役	田中 米太
取締役	小林 敦之
取締役(社外)	中前 忠
取締役(社外)	原 良也
常勤監査役	神崎伸一郎
常勤監査役	大島 誠司
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	塩畑 一男
監査役(社外)	米田 正典

従業員数 (2014年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,793名
国内グループ計	588名
海外グループ計	3,089名
合計	5,470名

グループ会社 (2014年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社	
株式会社ジーベックス	
日本電子技術株式会社	
株式会社エビテックス	
株式会社アドテックエンジニアリング	

他5社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.

- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.
- Vista Controls Systems, Corp.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- NATRIUM Sp. zo.o.

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.

他25社

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領	3月31日
株主確定日	なお、中間配当制度は採用しておりません。
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株
株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行の本店および全国各支店で 行っております。

住所変更、単元未満株式の買取などのお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行ないません。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。



2014年4月1日、おかげさまでウシオ電機は**50周年**を迎えました。

50周年記念サイト公開中
<http://www.ushio.co.jp/50th>

ウシオ 50周年

検索

スマホはコチラから



発行：ウシオ電機株式会社

コーポレートコミュニケーション部

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、
ベジタブルインキを使用しています。

P・R・I・S・M PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するウシオの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝える情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。